

# 岡山大学工学部 同窓会報

No.31  
2019.8



## Contents

工学部長挨拶.....	2	「思い出」奨学金 俣野 顕憲.....	16
代表幹事挨拶.....	3	第1回NT〇会開催の報告 .....	17
退職にあたって.....	4	寄付者一覧.....	18
学科の最近の話題.....	6	会計報告.....	19
岡山大学ホームカミングデイ2019 .....	9	同窓会事務局より.....	20
職場紹介、各支部報告.....	11		

# 岡山大学の志と工学部の貢献



工学部長

阿部 匡伸

同窓会の皆様におかれましては、ご健勝、ご活躍のことと存じます。前回の同窓会報では、同窓会と工学部の教育との関わりについてご紹介させていただきました。今年度も引き続き、就職関係、教育に関わる支援、海外研修にご協力頂いております。ここに、改めて心より感謝申し上げます。さて、榎野学長体制となって2年が過ぎました。今回の同窓会報では、最近の岡山大学の方向性と、それにかかわる工学部の貢献について、2点、ご紹介させていただきます。

多くの方はご存知かもしれませんが、岡山大学はSDGs（即ち、地球環境と人類社会の持続可能性を追究し、「誰一人取り残さない」あるべき姿を目指す取組）の推進を掲げています<sup>注1</sup>。また、2017年12月に「ジャパンSDGsアワード」特別賞を受賞するなど、“SDGsの岡山大学”として世界に認知されつつあります<sup>注2</sup>。2018年度は大学全体でSDGsの各目標（Goal）と研究活動の関連付けを整理しました。結果、196件の研究活動がピックアップされ、内18件が工学部の貢献です。具体的には、「Goal 3. すべての人に健康と福祉を」「Goal 7. エネルギーをみんなに、そしてクリーンに」「Goal 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう」「Goal 11. 住み続けられるまちづくりを」等に関連した研究活動です。SDGsは幅広い領域を含んでおりますので、工学部の貢献はさらに広がるものと考えています。今後も大学の方針に合わせて世界に目を向け、貢献していきたいと考えています。

2点目は地域貢献に関する取組です。岡山大学は、本年3月25日に岡山県と「大学と連携した地域産業振興」に係る協力に関する協定を締結しました<sup>注3</sup>。本協定は、県内企業の技術開発及び大学の教育・研究を促進することで地域の活性化を目指しています。研究に関しては、本年秋に、“岡大構内に県が拠点を設置”し、企業と大学とのマッチング支援や複数の企業及び研究者との連携構築に取り組みます。官学連携のために、自治体が大学内に拠点を設置することは全国的にも初めての試みとのこと。また、教育に関しては、本年秋に、自然科学研究科（工学系）が県から寄付金を頂き、セキュリティ技術が学べるリカレント教育講座を開設します。この寄付講座の例をみても分かるように、本協定は工学部に大きな期待が寄せられています。また、工学部としても、久しぶりの寄付講座開設となり、嬉しく思っています。少子高齢化で学生数が減少する中、社会人学生やリカレント教育が注目されています。また、技術革新が著しい近年において、産業界から新しい技術の教育が求められています。工学部としては、最先端の技術を研究しつつ、産業界に必須となりつつある汎用技術を見極め、最新の技術を身に着けた学部生、留学生、社会人学生を育成していく所存です。今後も、皆様のご支援・ご指導をよろしくお願い申し上げます。

注1：<https://sdgs.okayama-u.ac.jp/>

注2：[https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id7256.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id7256.html)

注3：[https://www.okayama-u.ac.jp/tp/topix/topix\\_id493.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/topix/topix_id493.html)

# 「工学部同窓会からのご挨拶」

**新**入生の皆様、同時に、工学部同窓会新会員の皆様、岡山大学工学部に入学され、大学生生活も軌道に乗りつつある頃と思います。初心を忘れず、この恵まれた岡山大学で是非とも良いものを得ていただきたいと願っています。

さて、工学部が昭和35年（1960年）4月1日に機械工学科と工業化学科の2学科（定員各40名）で設立されて以来、学科増、定員増を伴って学部が発展し、同窓会会員は、現在学部卒業生だけで20,000名を超えています。

工学部同窓会は、各学科（系学科）を基盤とした学科同窓会があり、また工学部同窓会OBを中心にした、関東支部、関西支部、岡山支部の3支部があります。また、本年9月には東海支部が発足する予定です。工学部同窓会の発展のためには、支部活動の充実が必須と考え、支部の発展を期待しています。

同窓会としては、学科、研究室、クラス単位のものがあり、様々な活動が行われていると考えられます。また、幅広い年代で、また、国内外の多種多様な分野の第一線で活躍されているOBがたくさんおられます。同窓会のネットワークを通して繋がり合うことができ、情報交換でき、さらに新たな力を生み出す契機となれば素晴らしいと思います。

工学部同窓会報は、そのための交流の場です。昨年から、全面カラー化し、内容の充実も図っています。様々な活動、経験、お考えの寄稿を歓迎しています。また、工学部同窓会ホームページも本年新調していますのでご覧ください。

来年2020年（令和2年）には、工学部創立60周年を迎えます。そのための記念行事が同年4月29日に予定され、関連する事業内容が検討されています。創立50周年の時と同様に、工学部同窓会としてこの事業に協力していきたいと思っておりますので、皆様のご参加、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

工学部同窓会はまだまだ発展途上にありますし、是非とも岡山大学工学部にふさわしい同窓会にしていきたいと願っています。

最後になりましたが、皆様のご健勝とご活躍を心からお祈りしています。



工学部同窓会代表幹事

酒井 貴志

（1970年合成化学科卒）

## 工学部同窓会の活動

- ① **会員名簿の整備**：現在は、冊子体での名簿発行は行わず、電子媒体での情報管理を小野高速印刷㈱に委託しています。同窓会活動のために名簿情報の必要な方は、工学部同窓会事務局にご相談ください。また、住所等の変更がありましたら、事務局までお知らせください。
- ② **「岡山大学工学部同窓会報」の発行**：毎年、8月初旬に発行しています。
- ③ **「岡山大学ホームカミングデー」（毎年10月）における工学部同窓会総会、報告会、懇親会の開催**：大学全体で様々な企画があります。ホームページや本会報を参照下さい。
- ④ **学科同窓会の活動**：OBからの企業体験講演会、見学会、交流会、学科教育支援活動など。
- ⑤ **会費、寄付金のお願い**：会費は、岡山大学Alumni（全学同窓会）会費10,000円と工学部同窓会会費10,000円の合計20,000円を入学時にお願ひしています。また、卒業生、教職員の皆様からは多額のご寄付をお寄せいただいております（寄付者一覧、会計報告参照）、ご支援に厚くお礼申し上げます。入学時に納入できなかった方には、後日、納入の依頼を送らせていただいております。同窓会活動の原資ですので、どうかよろしくお願いいたします。

# 退職にあたって

## 退職にあたって

電気通信系学科

船曳 繁之



平成最後の年である本年3月31日に、41年間の大学教員活動を無事に終え、定年を迎えることができました。岡山大学工学部電気工学科の助手として採用された当時は、工学部敷地内には旧陸軍の兵舎であった瓦葺木造の平屋が残っており、その周りには雑草が生い茂った空き地がありました。現在の整備された工学部と比較し、工学部が整備途中であった景色を思い浮かべ、非常に懐かしく思います。

着任した電気工学科は4つの研究室で、各研究室は教授、助教授、助手と技官2名（技術系と事務系）で構成され、現在の学科と比べると小さな学科でした。採用された電気機械学研究室では、電力用半導体素子を用いた電力変換回路の研究を行っており、教員は姫井豊治教授、中西宣一郎助教授と私でした。研究は、実験と計算機シミュレーションを並行しながら進めていました。当時はパソコンもなく、計算機シミュレーションは計算機センター（現在の情報統括センターの前身）に設置されていた大型コンピュータを利用していました。その使い方も、プログラムの1行を1枚のカードに穿孔し、それを読み取り機で読ませた後、その結果を数日から1週間待つ、現在では考えられない、のんびりとしたスピードでした。その後、講師、助教授となり、1997年に工学系学科が

新設された島根大学に教授として着任し、学科の立ち上げに参加しました。この時期は国立大学の法人化とも重なり、多くのことを経験しました。そして、2010年3月に再び岡山大学で教育と研究の場を頂き、この3月末に定年を迎えました。

最初の頃の研究は、電力用半導体素子を用いた無効電力制御装置や交流電力制御といったパワーエレクトロニクスの内容でした。その後、電動機の手動制御、発電機の自動電圧制御、無人搬送機の走行制御、エネルギー貯蔵装置を用いた電力制御の研究を行いました。島根大学では、新たにメタヒューリスティクスを用いた電力制御装置の最適化と再生可能エネルギーである太陽光発電に関連した研究を開始しました。2010年の岡山大学着任以降は、大学教員として残された時間を考えて、太陽光発電に関連したテーマに集中し、2012年に着任して頂いた高橋明子助教と一緒に取り組みました。

これまで岡山大学、島根大学の研究室から多くの学生が社会に巣立って行き、何年又は何十年か後に開催される同期同窓会に呼んで頂き、皆さんが多方面で活躍されていることをお聞きし、嬉しく思っています。自分が興味を持った研究テーマで自由に研究を行い、多くの学生を社会に送り出すことができたことを、ご支援頂いた多くの方に感謝する次第です。

退職後は、岡山の地で少しでも役に立つようなことを行いながら、自由な時間を有意義に過ごせたらと考えています。最後になりますが、皆様のご健勝をお祈りして筆を置きます。



## 退職にあたって

情報系学科

尺長 健



平成8年7月1日から、情報工学科（情報系学科）でパターン情報学分野を担当してきましたが、平成31年3月末をもって退職致しました。2ヵ月余りを経過した現時点で、卒業生の皆様へのメッセージを思いつくまに書かせて頂きます。

まず、在職中、研究室スタッフとして共に歩んで頂いた向川康博（現在、奈良先端大教授）・右田剛史の両博士、私の課した難題に真剣に取り組み、博士論文としてまとめ上げた4名の方々、修士論文あるいは卒業論文においてコンピュータビジョンの様々な課題に取り組まれた多数の方々、それぞれの方々との出会いが研究を進展させる原動力でした。改めて感謝致します。22年9月を振り返ると、もちろん予定通り順調に進んだ研究が多いのですが、悪戦苦闘の末に皆さんの頑張りや偶然とも言える幸運によって何とかあったものが少なからずあったというのが正直なところです。むしろ、私にとってはこれこそが研究の醍醐味でした。それぞれの経験がその後の皆さんにとって何らかの形で活かされることを願っています。

長年担当してきた講義の古い講義ノートを見ていて、気がついたことがあります。まず、20年以上前に常識と考えられていたことの中にはもはや成り立たなくなっ

たことが幾つかあります。例えば、20世紀末には大きな問題であったメモリーギャップの問題は現在ではほぼ解消されました。また、20年前には人間レベルには暫く到達できないと考えられていたコンピュータ将棋やコンピュータ囲碁の分野にブレイクスルーがありました。20世紀末に成功を取めたチェスプログラムは、静的評価関数に基づくサーチであり、正攻法による勝利であったと言えます。これに対し、現在のコンピュータ囲碁やコンピュータ将棋はモンテカルロサーチをベースとし、静的評価関数を否定することから始まった逆説的なアプローチです。難しい課題であったからこそ取られたアプローチが、深層学習や強化学習などの新技術を利用することで成功した点も現代的であり、象徴的なできごとだと思います。

私は岡山大学に着任して間もなくから約10年に亘って情報工学概論を担当しました。講義の冒頭では必ず第三の波について述べていましたが、第三の波が21世紀の半ばまで続くとしたアルビントフラーの予言は今も生き続けているように思われます。個々の技術の発展は非線形であり、時には突発的ですからある状況では、将来を予測し難いのですが、もっと大局的に観ると、社会全体における情報化の進展は揺るぎがなく、個々の技術革新が相互に刺激を与えつつ発展しているというのが現在の状況なのだと思います。是非、21世紀半ばまで生き延びて、その結末を見たいものです。



## 機械システム系学科の近況

機械システム系学科・学科長 神田 岳文



同窓生の皆様、旧教職員の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

現在、機械システム系学科では1年次に160名ほどの学生が入学し、2年次後半から機械工学コースとシステム工学コースに半数ずつ分かれて教育を受けています。

大学院博士前期課程への進学者の

多くはそれぞれのコースに対応する機械システム工学専攻・機械系および同専攻・システム系に進みますが、平成30年度に発足したヘルスシステム統合科学研究科に所属する研究室もあるため、一部の学生は同研究科に進学しています。

本学は昨年度、大学の強みとなる分野を「重点研究分野」に指定し、さらに、これらを学術研究拠点、社会実装拠点に育てるための「次世代研究育成グループ」を選定しました。機械システム系学科から提案した「次世代モビリティ分野」が「重点研究分野」に、また当学科の教員からなる「高効率・高機能次世代モビリティシステムの開発研究」グループが「次世代研究育成グループ」として選定されました。

近年、環境性能に優れた次世代自動車や、広く応用が期待されるロボット・ドローン技術などが注目を集め、さらにAIに代表される情報技術と自動車や航空機、ロボット等の移動体（モビリティ）の融合により移動体の知能化が進んでいます。当学科でも旧来の移動体関連の研究に加え、ロボット技術や新しい材料・生産技術と融合させた次世代のモビリティシステムに関連する研究が行われています。

今年1月には上記のグループが中心となり、岡山国際交流センター国際会議場において「次世代モビリティ 一次

世代自動車・ドローン・ロボットによる産業イノベーション」と題する講演会を開催しました。当日は行政および産業界からご講演をいただくとともに、機械システム系学科のすべての研究室の研究紹介を行い、学内外から多くのご参加をいただいたところです。

工学を取り巻く状況が急速に変化する中、当学科が教育研究の対象とする領域もますます広がりを見せています。今後も最先端の研究活動と、最新動向に対応した教育活動を進めてまいります。今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、2018年5月以降の機械システム系学科の人事異動は以下の通りです。

【着任】機械工学コース：応用固体力学・坂本惇司助教（2018年9月）

【転出】システム工学コース：機械インターフェイス学・杉原太郎助教（2019年3月、現在・東京工業大学准教授）、生産知能学・崎山朋子助教（2019年3月、現在・創価大学准教授）



## 電気通信系学科の近況報告

電気通信系学科・学科長 豊田 啓孝



同窓生の皆様、ならびに、旧教職員の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。学科を代表して、電気通信系学科の近況をご報告致します。

まず、最近の本学科の教員の異動についてご紹介致します。平成30年12月に樽谷優弥助教（医用情報ネットワーク学）が大阪大学から着任されました。一方、

同年12月に羽田真毅助教（ナノデバイス・材料物性学）が筑波大学に転出されました。さらに、平成31年3月には本学電気工学科の卒業生でもございます船曳繁之教授（電気エネルギー・システム制御工学）が定年退職されました。船曳教授は引き続き4月以降も特任教授として教育や研究指導を担当されています。

教育面におきまして、岡山大学では60分授業4学期制を平成28年度に開始しました。2単位の講義は90分で1週間に1回が一般的でしたが、60分×2の120分（途中に10分間の休憩有）で1週間に2回となりました。同時に受講する講

義数は半減した代わりに、少ない科目を短期間に集中して学びます。学ぶ内容は変わりませんので、その定着を図るための演習の時間が授業時間内に確保できるようになりました。

工学部では平成23年度の改組により定員100名の電気通信系学科が設立されました。当初は電気電子工学コースと通信ネットワークコースの2コース制でしたが、平成29年度より電気通信系分野全体を幅広く学習できるカリキュラムに編成し直し3コース制(エネルギー制御コース・知能エレクトロニクスコース・ネットワーク工学コース)に移行しました。また、本学科では、IoT、ビッグデータ、AI、セキュリティ等の分野の重要性を認識し、平成29年度から文部科学省の教育プログラムであるenPiT2(Education Network for Practical Information Technologies)のセキュリティ分野(enPiT2-Security)の実施主体として、情報系学科とともに情報技術、ネットワーク、セキュリティに関する実践的な講義・演習を実施しています。特に、本学科が提供しているPBL(Project Based Learning)演習「暗号ハードウェアセキュリティ演習」は学内のみならず他大学からの受講希望者も多く、出張演習を実施しています。

学生の就活状況につきましては、売り手市場ということもあって多くの求人をいただき、大半の学生は希望の就職先に決まりそうな情勢です。一方、志願倍率は芳しくない状況が続いています。前述のように充実した教育プログラムを実践していますので、優秀な学生を輩出するためにも、お近くに高校生のご保護者のお知り合いがいらっしゃいましたら本学科の紹介を是非ともよろしくお願い致します。

最後に研究面では、岡山大学は限られた資源を効果的、重点的に配置するための「重点研究分野」を昨年選定しました。その時、岡山大学の顔となる学術研究、社会実装拠点に育てるため5つの「次世代研究拠点」を選定しましたが、そのうち2つは本学科教授が研究代表者です。1つは野上保之教授(情報セキュリティ工学)の「IoT基盤の信頼を支えるフィジカルセキュリティシステムの構築」であり、もう1つは林靖彦教授(ナノデバイス・材料物性学)の「超高速電子線プローブによる広帯域光励起下の動的構造解析と新機能・新物質の探索」です。これら以外にも学科内に複数の研究グループを形成し、世界的、全国的な最新の成果を発信しています。共同研究のシーズがあるかもしれません。ホームページ、あるいは、今年は10月26日(土)に開催される予定の岡山大学ホームカミングデイ2019など、是非お立ち寄りください。今後ともよろしくお願い致します。



1年生向け電気回路の講義風景(①大講義室)

## 情報系学科の近況

情報系学科・学科長 太田 学



同窓会会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。また平素より様々なご支援を賜りありがとうございます。令和元年度(平成31年度)の学科長を務めています太田と申します。情報系学科を代表し、近況についてご報告いたします。

まず、教員の異動ですが、平成8年7月から23年9月にわたって学科を支えてこられました尺長健教授が平成31年3月に定年退職され、名誉教授に就任されました。尺長名誉教授は、コンピュータビジョンに関する研究を推進され、3次元画像解析、顔画像処理、仮想現実(VR)などの分野で業績をあげられるとともに、学科ではパターン情報学分野の教育を担当されました。ま

た、学科長を通算4年務められ、工学部ではFD関係の委員長や委員を長年担当され、授業評価アンケートの電子化などに尽力されました。この結果、情報系学科の教員は現在、教授6名、准教授3名、講師3名、助教7名、助手1名の計20名となっています。なお、尺長名誉教授には特別契約職員教授(特任)として4月から引き続き人工知能などの講義で学科の教育にご協力いただいています。

次に、学生の状況ですが、岡山大学が平成28年度から導入した「60分4学期制」は4年目となり、学生にもすっかり定着した感があります。そろそろ教育効果が表れてくる頃と期待されます。また、世の中もそうですが、学生もAIやセキュリティなどへの関心が高く、セキュリティ教育を推進するenPiT事業に情報系学科は携わっていますが、この授業には学部学生だけでなく大学院学生も積極的に参加しています。さらに、学生の就職活動につきましては、多

くの前輩方のご支援もあり、昨年と同様に学生はおおよそ希望する企業への就職を決めているように思います。情報系学科では学科長が就職担当を兼ねますが、今年は今まであまり縁の無かった企業の方の訪問も多く受けており、引き続き情報系人材の需要の力強さを感じます。

なお、今年は以下の日程でオープンキャンパスとホームカミングデイを実施します。

・オープンキャンパス 令和元年8月10日と11日

・ホームカミングデイ 令和元年10月26日

是非お立ち寄りいただけたらと思います。

同窓会会員の皆様には引き続きご支援を賜れば幸いです。末筆ではございますが、皆様のご多幸ならびにご活躍を心よりお祈り申し上げます。



## 化学生命系学科の近況報告

化学生命系学科・学科長 坂倉 彰



同窓生の皆様ならびに旧教職員の皆様におかれましては、ますますご清祥にお過ごしのことと拝察申し上げます。令和元年度の学科長を仰せつかりました坂倉です。学科を代表して、本学科の近況をご報告させていただきます。

まず、前会報以降に生じた当学科の教職員の異動についてご報告いたします。萬代大樹 助教（合成プロセス化学）が平成30年9月末をもって岐阜医療科学大学へ、浅子壮美 助教（有機金属化学）が平成31年3月末をもって理化学研究所へ、また、村井征史 助教（有機金属化学）が令和元年5月末をもって名古屋大学へ転出されました。一方、この間に新たに本学科の教員として着任された方はおりません。

学部教育に関する最近の話題として、60分授業4学期制を導入して4年目となり、その長所と短所が明らかになってきました。長所としては、1コマあたりの授業時間数が増えることにより学生の理解度が向上したことや、60分ごとに休憩を挟むことで授業に対する集中力が向上したことなどがあげられます。一方、短所としては、時間割の空きがなくなったため、教職科目などの卒業要件外科目の履修が非常に困難となりました。そこで、苦渋の決断ではありますが、本分である当学科開講科目の学修に注力してもらうために、新しい教育免許法及び同法施行規則が適用される今年度の1年生から高一種（理科）の教職課程を廃止しました。高一種（工業）は、これまで通り取得することができます。

化学生命系学科は、1960年（昭和35年）に工学部が設

立する際に工業化学科として設立され、今年で60年目を迎えました。ここに至るまでに幾多の改組があり、前回（平成23年）の改組によって現在の化学生命系学科が誕生して8年が経ちます。近年、データサイエンス教育の重要性がますます高くなるなど工学部を取り巻く環境が大きく変化しているため、再び、工学系の学部教育の見直しが始まっています。化学生命系学科では、環境理工学部環境物質工学科とともに、工学系学部における化学と生命工学分野の研究のあり方や、次世代を担う優れた人材を育成するのに適した教育について話し合いを進めております。

このように当学科は、学科建制以来受け継がれて来た理念を維持しつつ、時代や環境の様々な変化に応じて、そのあり方を変化させています。秋には恒例のホームカミングデイも予定されておりますので、是非ともお立ち寄りになって今の化学生命系学科をご覧いただければと思います。末筆ではございますが、皆様のご多幸とご健勝ならびにご活躍をお祈り申し上げます。



## 2019年度 工学部同窓会報告会・懇親会のご案内

岡山大学工学部同窓会では、昨年につき、本年10月26日（土）に「工学部同窓会報告会」と「懇親会」を計画しています。当日は、「岡山大学ホームカミングデイ2019」の多彩な全学的な企画、工学部の研究室開放、およびOB講演会等も計画されています。詳細は岡山大学Alumni（全学同窓会）、工学部、および工学部同窓会ホームページを参照ください。この機会に、変容した岡山大学と工学部をご覧いただき、同窓会で懇親を深めていただければ幸いです。

## 工学部同窓会報告会

日 時：2019年10月26日（土）15：30～16：30（受付開始：15：00）

場 所：岡山大学工学部1号館1番教室（本館1階）

議 題：①工学部同窓会の活動報告と課題（工学部同窓会代表幹事、他）、②支部活動（関東、関西、岡山各支部から）、③工学部の最近の活動について（工学部副学部長）、④大学院自然科学研究科の現状について（大学院自然科学研究科副研究科長）、⑤意見交換

## 工学部同窓会懇親会（総会后 17：00～18：30；受付開始 16：30）

場 所：南福利施設（ピーチユニオン4階）

懇親会費：2,000円（含アルコール：工学部同窓会報告会受付にてお支払いください）

事前参加申し込み：後日お送りします「はがき」（岡山地区のみ）またはメール（同窓会事務局、[ofst@okayama-u.ac.jp](mailto:ofst@okayama-u.ac.jp)）にて、氏名、学科、卒業年、連絡先等を、10月18日（金）までにご連絡下さい。



工学部同窓会報告会



OBによる講演会



工学部同窓会懇親会



工学部同窓会懇親会

# 2018年度 工学部学科同窓会活動報告

(工学部同窓会報告会(2018,10,20)において報告されたパワーポイントを紹介しています。)

## 機械システム系学科同窓会

### 機械システム系学科

#### 役員

- ・学外幹事 尾崎 公一 (H9卒)
- ・報告者 永井 伊作 (H7卒, システム系 学内幹事), 大西 孝 (H9卒, 機械系 学内幹事)

#### 活動概要

1. 両コース共同の新入生に対する入会案内
2. 現役学生への支援  
システム工学コース: 学習環境, 就活環境向上のための寄贈  
機械工学コース: 「機械系エンジニアの歩き方」の後援
3. 卒業生による同窓会開催への支援(2件/H29年度)

### 1. 学習環境, 就活環境向上のための寄贈



- 現役学生のための寄贈活動**
- 超短焦点型 液晶プロジェクターとスクリーンを2式寄贈(2013年)
  - 就職情報提示のための掲示板(2015, 2018年)

### 2. 「機械系エンジニアの歩き方」の後援

- ・機械系卒業生が集い、エンジニアとしての働き方を在学生へ紹介
- ・同窓会主催の懇話会を開催し、相互交流を促進
- ・卒業生と在学生をつなぎ、両者の役に立つ企画として好評

各年度の参加企業数	人数
2006年度	91社
2007年度	82社
2008年度	97社
2009年度	87社
2010年度	87社
2011年度	95社
2012年度	85社
2013年度	98社
2014年度	85社
2015年度	98社
2016年度	94社
2017年度	89社

和やかな雰囲気での交流会

懇話会で先輩エンジニアから激励を受ける在学学生

本年度の実施予定: 2019年1月18日(金) 於: ビュアリティまきび

## 電気通信系学科同窓会

### 電気通信系学科

#### 活動概要

1. 同窓会等開催補助
2. イベント開催
3. ホームページの整備

#### 1. 同窓会等開催補助

年度	件数
平成26年度	3件
平成27年度	8件
平成28年度	9件
平成29年度	4件
平成30年度	5件(予定)



### 2. 開催イベント

- ・就活キックオフ
  - 開催日: 2018年2月21日(水)
  - 参加者: 企業29名, 学生76名
  - 卒業生による企業説明会
- ・キャリア形成のための懇話会
  - 開催日: 2018年4月20日(土)
  - 参加者: 企業12名, 学生43名
- ・学科同窓会報告・講演会
  - 開催日: 2018年10月20日(土)
  - 講演者: 卒業生2名
- ・研究施設紹介・懇話会
  - 開催日時: 10月16日(6:00~17:30)
  - 場所: ビデオ会議室



### 3. ホームページの整備

- ・学科同窓会の活動記録を掲載<https://www.eng.okayama-u.ac.jp/oc/ alumni/>



## 情報系学科同窓会

### 情報系学科

情報系学科助教 新妻 弘崇

#### 役員

- ・幹事(外) 林本 文典(南山二卒(株)), 三浦 三孝
- ・幹事(内) 新妻 弘崇

#### 活動概要

1. 情報系学科ホームカミングデイの活動報告
2. 情報系学科同窓会(情報二学会)の活動

### 1. 情報系学科ホームカミングデイの活動報告

- 研究室訪問: 教員と情報系学科OBとの交流の場
- 研究紹介イベント: ポスター形式で研究室の活動内容を紹介
- 「OB, 現役生, 教員の交流イベント」
- ・情報系学科長による学科紹介
- ・情報二卒(内)OBによる「演習室 情報二卒, NITは日本人 2018年卒」



昨年の情報系学科イベントの様子 (左) 研究紹介イベントの様子, (右) IOB講演会の様子

### 2. 情報系学科同窓会(情報二学会)の活動

- 工学部同窓会ホームページ内のコンテンツの充実  
<http://www.eng.okayama-u.ac.jp/alumni/index.htm>
- 情報系学科のトピック
  - JFEスチール株式会社 西日本製鉄所 見学ツアー (2018年8月23日)
  - 情報系学科3年生の授業の一環で実施

## 化学生命系学科同窓会

### 化学生命系学科

#### 役員

- ・共同代表 植木 潤介 (S56卒, 化学系), 井口 健 (S46卒, 生命系)
- ・報告者 内山 哲也 (H4卒, 化学系) 幹事(学内), 二見 彰一郎 (H6卒, 生命系) 幹事(学内)

#### 活動概要

1. 卒業生によるキャリア支援セミナー(3科+共済)
  - 日時: 10月20日(土) 11:00~12:00
  - 場所: 岡山大学2号館1406会議室
2. 卒業生による企業訪問の調整と実行

### 1. 卒業生によるキャリア支援セミナー

- ・卒業生による在学学生への講演会, 学生との懇話会
- ・今年度から学科別開催
- 「アタリシイ職種からSOAへ」  
西川 良太郎氏(岡山エスエスエス株式会社 取締役)  
2014年卒(化学系), 2017年卒(生命系)
- 「岡山県要領で法研中へ科移る教員 弘妻 弘崇」  
高橋 昌之氏(岡山県立大学 教授)  
H19卒(化学系)
- 金岡 幹之氏(岡山県立大学 教授)  
H27卒(生命系), H28卒(化学系)
- 「OB」リーダーシップ  
三木 相博氏(第一生命株式会社 岡山支店 支店長)  
S57卒(生命系)

### 2. 卒業記念集合写真の撮影と配布(14校+共済)

- ・卒業記念集合写真(学内と学外)の撮影と配布
- 
- 中城の年中生と卒業生と一緒に  
中城2号館前で卒業生と一緒に
- ・その他  
- 卒業生による企業訪問

# 職場紹介



アイシン精機株式会社 デジタルエンジニアリング部MBD推進グループ チームリーダー

**吉田 昌弘**

大学院自然科学研究科機械システム工学専攻修了  
(’06年3月)

私の勤務するアイシン精機は、エンジン冷却用電動ウォーターポンプ、オートマチックトランスミッション、自動駐車システム、パワースライドドアシステムといった、車の走る、曲がる、止まるの基本機能や燃費、快適性の向上に貢献するシステムおよび部品を主力製品としながら、家庭用燃料電池システムまで手掛ける総合自動車部品サプライヤーです。本社は愛知県の刈谷市という自動車部品サプライヤーの本社や工場が集積している自動車産業の街に在ります。アイシン精機では、藤森元社長を始めとする卒業生が開発、生産技術など多様な部署で活躍しておりますが、今回は私と電気通信系出身の菅翔平さん（Aisin Technical Center of China 赴任中）、三倉駿紀さんが所属するデジタルエンジニアリング部について紹介致します。

私達の職場では、CAEやモデルベース開発などのコンピュータシミュレーションを活用した製品開発プロセスを設計現場に浸透させることを使命としており、約120名の部員が在籍しています。現在の自動車の開発プロセスにおいては、試作によるトライアンドエラーを減らし、コンピュータ上に自動車や部品の計算モデルを構築し、その解析結果をもとに設計の作り込みを行うデジタル設計によって、開発期間の短縮や性能の最適化を行うことが主流になりつつあります。それに伴い、私達の職場の業務量と部員数はここ数年で一気に増加しており、エンジン性能や車体の空力、衝突、振動、電磁ノイズなど、あらゆる分野でコンピュータシミュレーションが活用されております。

その中で私が担当している領域はモデルベース開発であり、製品開発の初期段階において、目標とする性能（例えば燃費向上効果など）を達成する為には、どのようなシステム構成や制御方式が最適なのかをシミュレーションを使って事前検討する開発手法のことを言います。担当製品である冷却制御システムの例で説明しますと、電動ウォーターポンプなどのアクチュエータ、ラジエータなどの熱交換器、エンジン燃焼による発熱や冷却水を流す配管など、システム構成要素1つ1つの応答特性を物理式や特性マップなどのコンピュータ上で計算可能なモデルとして表現し、その計算結果をベースに、冷却回路構成案AとBではどちらが素早くエンジンが暖まるのか、温度制御ロジック案AとBではどちらが燃費向上するのかを解析することで最適設計

の方向性を把握してから、図面や制御ソフトの作成に取り掛かかり、その後に試作、実験にて性能検証という流れになります。

このようなモデル構築業務を遂行するには、冷却水の流量や圧力を計算する為の流体力学、温度を計算する為の熱力学、温度制御の為の制御理論など複数領域の工学知識が必要ですが、システム工学科で機械、電気、制御と幅広く学べたことが役立っております。一方で、日々技術は進歩していますので、大学や研究所から最先端理論を学んだり、製品の挙動を理解する為の実験を行ったり、カーメカの技術者と議論して意見を貰ったりと、外の世界に目を向けて新たな知識や考え方を吸収し、継続的に成長する努力をしております。

また職場における働き方改革については、有休取得日数と年間総労働時間の必達目標値が掲げられているほか、在宅ワーク、産休や育休制度なども複数の部員が活用しておりワークライフバランスを実現しやすい環境にあります。またモデル作成や計算結果処理作業の自動化など、業務効率化に対する取り組みとセットで労働時間削減に取り組んでいます。

最後に、これからの自動車業界はEVや自動運転といった新技術に次々と対応していかななくてはなりません、自動車業界で活躍する技術者になりたいという夢を持っていた大学時代の気持ちを忘れずに、日々新たな技術開発に挑戦していきたいと思っております。



シミュレーションの精度向上に向けて実験に取り組む卒業生の菅さん（左）と三倉さん（右）

私がシミュレーションモデルと制御ロジック開発のリーダーを担当した連続可変容量オイルポンプ。製品を採用されたカーメカ様より開発力を評価され、’17年度の技術開発賞を頂きました。



BIT VIET NAM COMPANY LIMITED

山口真司

工学部通信ネットワーク工学科卒（10年3月）

こんにちは。ベトナムのホーチミンにあるBIT VIET NAM COMPANY LIMITEDで働いている山口真司と申します。

この度、工学部同窓会会報への寄稿依頼をいただきまして、貴重な機会なので少し岡山大学を卒業してから今までの人生を振り返ってみようと思います。

大学在籍時代からwebアプリケーション開発を個人事業主として行っており、その流れで卒業後は知り合いの会社の子会社の社長として、新規サービス開発を1人で行っていました。今でこそリリーススタートアップやらPMFやらMVPなどといった、新規サービスを作る際のフレームワークとなる考え方を簡単に学ぶことができますが当時はつゆ知らず。何か新しいサービスを作ったらきっとヒットするという根拠のない自信のもと、ユーザーのことをまったく考えないで、ただ自分が作りたいものをだらだらと時間をかけて作っていました。「自分一人で開発する」というスタイルが完全に悪い方向に走っていた形ですね。

当然そのサービスは失敗し、その他いくつか別のwebサービスも作ったものの、結局売上は2年間ほぼゼロという体たらく。

根拠のない自信は完全に打ち砕かれ、雇われの身とはいえこのまま転職するのはさすがにわがまますぎるという思いもありましたが、今更何をすべきかわからず途方にくれていました。

その頃、東南アジアに進出しようとグループ会社の各代表が集まり東南アジア視察を行いました。ちょうど民主党政権時代で、1ドル80円というスーパー円高だったというのもあり、インターネット上でも中国の次のオフショア開発拠点としてベトナムが注目されていた頃でした。ベトナムは国をあげてITエンジニア育成に力を入れており、比較的親日国です。特にホーチミンは成長著しく、多くの日本人が住んでいることもあり比較的馴染みやすい場所でした。

特に日本でやりたいことがなかったというのと、英語を少しずつですが勉強を進めていた関係で外国人エンジニアと働いてみたかったので、ベトナムで開発拠点を立ち上げることにしました。



ベトナム人パートナーと共同でBIT VIET NAMという会社を立ち上げ、最初は私も含めて5人で2013年にスタートしました。（左端が筆者）グループ会社の仕事をベースに、いくつか知り合いから仕事を受けていきまして、案件の状況で上下することもあります。7年目の今はおよそ20人体制で開発を行っています。



オフショア開発会社を経営する一方で、webサービスやアプリを開発するのが好きなので、個人で現在2つのサービスを運営しています。

## ■ITエンジニア用英語学習サービス「エンジリッシュ」

<https://e-lish.io>

ベトナムに来た当初は通訳を通して開発をしていましたが、今はほぼ100%英語でベトナム人と開発業務を行っています。TOEIC用の英語を勉強していましたが、はじめから開発の現場に即した英語を覚えていけば、比較的短時間で英語で開発ができるようになるのではないかという思いのもと、「エンジリッシュ」というサービスを立ち上げました。

ベトナムに来て思うことは、日本人の強みというのは「比較的経済力のある日本を相手に、日本語を喋ることができる」ということです。世界的に見ても、日本の品質はいいが生産性は低いと言われていました。字数の制限で詳しくは省きますが、日本人も英語で外国人と仕事を進めた方がきっと生産性は高くなると思っています。

## ■日程調整アプリ「アイテムス」

<https://aitemasu.me/>

仕事の日程調整を簡単にするアプリです。エンジニアの面接の日程調整などを行うのが非常に面倒だったので作りました。

最近力を入れて開発をしており、アプリ名を変更して、世界中で使ってもらえるようなサービスにしたいと思っています。

これら2つのサービスは今のところ無料で行っていますがいつか事業化したいと考えています。

ベトナム生活も7年目を迎えました。会社としての活動も個人としての活動もまだまだ発展途上で、いろいろと失敗もありますが、引き続き野心を持って活動していきたいと思っています。

工学部同窓会岡山支部は、岡山県とその近隣県を含めた地域を中心に活動していますが、どの地域の方々のご参加も歓迎しています。現在は、各学科OBの幹事により月例幹事会が行われ、企画・運営がなされています。月例の親睦会やイベントが企画され、学科、研究室、年代を超えたOBの親睦と交流の場となっています。皆様のご参加をお待ちしています。

## 平成30年度の主な活動

### ■ 親睦

1. 毎月の親睦会（原則として第4木曜日、親睦会、イベント、ホテルランチバイキング等）
2. 岡山支部総会・特別講演会・懇親会（6月9日、ピュアリティーマきび）。特別講演会は会員の関心あるテーマとして「アルツハイマー病の診断および治療に向けた最近の流れ」と題して環境理工学部准教授 島内寿徳先生にお願いしました。出席者から活発な質疑があり好評でした。懇親会では和やかな交流が行われました。また、還暦、古希、喜寿、傘寿の方にはお祝いの岡大ブランド酒「おお岡大」が贈呈されました。(①、②)
3. 岡山大学考古学資料室見学（7月26日、③、④）
4. 納涼ビアガーデン（8月26日、ピュアリティーマきび）
5. 岡山大学埋蔵文化財センター見学（9月27日）
6. 岡山大学ホームカミングデイ企画に合流、報告会、懇親会（10月20日）
7. 秋の拡大親睦会 操山・曹源寺散策（岡山国際ホテルランチ）（11月27日、⑤）
8. 忘年会（12月18日、ピュアリティーマきび）
9. 津島遺跡見学会（平成31年1月24日）

### ■ 工学部の活動支援

工学部・経済学部共同講義「実践コミュニケーション論講座」([http://www.e.okayama-u.ac.jp/practice\\_communication/outline/](http://www.e.okayama-u.ac.jp/practice_communication/outline/)) への講師2名の派遣

### ■ 広報活動

1. 工学部同窓会岡山支部HP：  
<https://okayama-u.sakura.ne.jp/wp/>（会員専用欄 パスワード okadaieng）
2. 岡山支部メールマガジンの発行（月刊）：  
メールで配信希望の方は、同窓会事務局までメールで連絡下さい。また、岡山支部HPでも閲覧できます。



関西支部は発足してから5周年の節目の年を迎えます。平成30年度の活動報告は次の通りです。

平成30年9月には、京都市左京区の聖護院御殿荘で総会を兼ねた懇親会を開催しました。

台風で欠席された方もいましたが33名が出席しました。総会開催前に、聖護院の拝観を行いました。地震・台風の被害者に対して黙祷をし、義援金を募り日本赤十字社に献金しました。

平成31年1月には、同窓生が社長である六甲バター(株)の稲美工場で、工場見学会を行いました。岡山支部からの参加者2名を含めて18名が参加しました。工場見学後、兵庫県立考古博物館の見学もしました。

平成31年2月には、兵庫県宝塚市の「がんこ宝塚苑」で、新春懇親会を26名の出席者で開催しました。石原名誉教授・宮崎名誉教授および工学部同窓会代表幹事の酒井名誉教授のご出席を頂きました。初めての出席者も2名あり、近況報告と学生歌の斉唱などで大いに盛り上がりました。

今回の関西支部の総会を兼ねた懇親会は、岡山大学Alumni(全学同窓会)の関西支部設立総会開催後に行う予定です。設立総会および懇親会の概要は次の通りです。

- ・日 時 令和元年8月25日(日)  
11時～14時(予定)
- ・場 所 大阪新阪急ホテル  
大阪市北区芝田一丁目1番35号  
電話06-6372-5101(代)
- ・会 費 8,000円

同期生をお誘い合わせの上ご出席をお願いします。

詳細は世話役(大森 勝(電気2期): momoritakatsuki0822@gmail.com)まで問い合わせをお願いします。



平成30年9月の総会・懇親会出席者



平成31年1月の工場見学会参加者



平成31年2月の新春懇親会出席者

岡山大学・工学部卒業生の皆様、いかがお過ごしでしょうか？益々ご活躍されている事とお察しいたします。私、関東支部の幹事（支部長）笹川廣太郎でございます。平成から令和へと元号もかわり日本の歴史も新たなページが始まりました。日本の歴史・文化は世界に誇れる素晴らしいものです。さて近況ご紹介ですが、まず昨年度（2018年）は7月28日（土）に岡山大学全学同窓会（Alumni：アラムナイ）東京支部交流会（兼総会）を東京都千代田区神田錦町の学士会館で開催いたしました。学部としては法学部、文学部、経済学部、工学部、農学部、理学部、環境理工、医学部、教育学部、来賓・大学関係者総勢100名規模で開催されました。（右写真は交流会の風景）第二部は同じ会場で各学部別のテーブルに分かれて近況の仕事や環境など様々な分野の話題と情報交流であっというまの半日を過ごしました。なおこのイベントは、毎年夏に全学合同で開催されますが、今年（2019年）は新制岡山大学創立70周年記念を兼ねて7月27日（土）13：00～千代田区の如水会館で開催予定です。

また、昨年10月には関東在住の岡山大学卒業生でゴルフコンペも開催しました。今年も6月に開催予定です。さらに、本年1月には恒例の工学部OBによる懇親会を開催し、新宿駅前の居酒屋で仕事や趣味、政治経済など情報交換で盛り上がりました。（右写真は懇親会風景）そのなかの意見交換で若いOBからは20代～30代～40代の層にさらなる交流のメリットが感じられるようなセミナー等の企画も希望されました。

今後は工学部同窓会岡山支部のような同窓会サイトの開設などの仕組みも参考にネットでの交流の場があるといいな……と思います。皆様のご意見を頂ければ幸いです。





平成27年(2015)コンケン大学正門前にて  
ピヤワン助教授、奨学生一同と



昭和45年(1970)  
コンケン工場日本人スタッフ

私が 45 年以上前にお世話になった、タイ国（東北部）へのほんの少しの恩返し記録です。

### 1 基金設立趣旨

平成 17 年（2005）10 月

昭和 40 年代の初めは、日本企業の第一期東南アジア進出ブームで、私の就職した会社もタイ国など、社内みんなの目は海外東南アジアに向いていました。

入社して 2 年目、昭和 45 年（1970）1 月、タイ国コンケン工場に出向を命ぜられて赴任、3 年 3 ヶ月間の勤務を終えて未だベトナム戦争中であった昭和 48 年 4 月に帰国しました。

帰国後、翌年に転職、昭和 57 年（1982）に岡山大学タイ国留学生と共に設立した「岡山タイ親善協会」を中心に岡山でタイ国からの留学生のための支援活動をしてきました。

平成 17 年（2005）3 月、岡山県を定年退職する時にコンケン大学帰国留学生とタイアップして、このタイ国東北部イサーンの教育水準向上のために「あしながおじさん」的期間限定の使い切り奨学制度を設立しました。

設立の考えには妻の絶大なる理解と支援があったものでこれなくしてはとても具体化はできないものなので本当に感謝しています。

### 2 第 1 期 K J M 奨学生の誕生

06/06/30

第 1 期生は、マイさんとパイさんです。どちらもタイ東北部の出身で、6 月にコンケン大学教育学部に入学しました。日本で言えば青森県、秋田県の田舎町の出身者が旧東北帝国大学教育学部（当時、タイ国立総合大学は少ない）に入学したような感じでしょうか？二人とも大学の制服の襟の徽章が輝いています。

K J M（コンケン・ジュート・ミル）奨学生の条件は  
1）両親の現金収入が年間 3 万バーツ以下であること。

2）東北 19 県（イサーン）の出身者で学業成績が優秀であること。

3）卒業後は東北各県の小中学校の教師となること。年間 3 万バーツ（大学授業料は年間 1.6 万バーツ）を 5 年間支給し、返済は不要である。

ただし、毎年、学業と品性について評価を行う……というやさしくも厳しい条件です。



スラッター学部長とラダー教授、マイとパイさん

（追加報告：最終奨学生の卒業と教育学部から私への記念盾）

平成 26 年（2015）12 月 15 日、最終の第 6 期 K J M 奨学生（イフさんとダオさん）に、シリトーン王女から国王の服喪中ですが予定どおり卒業証書が授与されました。平成 18 年（2006）からの 10 年間で、12 名の学生に奨学金を提供して、無事に「使いきり、あしなが？ K J M 奨学基金」は事業完了です。私は、定年後のこの 10 年間で「エネルギー残余期間としてタイ国で活動をする」ことを目標としました。



まだ残余エネルギーは多少ありそうです……さて、今後はどうしようかな？？？

### 3 田舎の学校訪問

2012～2018



生徒は仏教の日の白い制服

私の次の目標は、奨学生達が卒業して先生となった学校を訪問して生徒たちと会うことでした。この目標は、2012年の1期生のマイさんの学校の訪問から、2018年の6期生イフさんの学校まででなんとか一巡し、一応完了しました。

平成26年(2014)に訪問した3期生のニム先生のチャイブン県の学校は、コンケン県から往復200キロで、田んぼと畑の中にある生徒250名の小さな学校です。学校では、先生全員と生徒達が大歓迎してくれてKさんからの学校への寄付と子供たちへのお菓子のプレゼントとなりました。

### 4 「コンケン大学自閉症センター」図書コーナー完成

14/11/20



私の地元の母校?、倉敷市立味野幼稚園には、小さな可愛い図書コーナーがあります。

同じような施設を作りたいと考えていたところ、K氏と同

期生のY君が資金協力してくれることになり、立派に「自閉症センター」内に完成しました。

工業化学科5期生有志会の会場でY君の寄付についてみんなに報告して記念品の授与です。



### 5 天体望遠鏡 (クルドゥダオ: kong doo dao) 17/07/10

私の幼稚園時代からの友人のN君は、趣味が多くてコーラスとか、ヨット(岡大ヨット部OB)とか、さらに、天体望遠鏡で子供達に星座を教えたり……等々楽しんでます。そんなN君から「中古の天体望遠鏡を小学校へ寄付」の要請があったので、私は重いのを頑張って運び、マイ先生のシーサケット県の小学校にプレゼントしました。

生徒、先生、みなさん天体望遠鏡を見たことがなくて、望遠鏡は校長先生以下に大歓迎をされました。子供たちの嬉しそうな顔が最高にいいですね。(左)



## 第1回NT〇会(機械加工学研究室OB会・第17回NT会)開催の報告

世話人 塚本真也、大橋一仁

第1回NT〇会(機械加工学研究室OB会・第17回NT会)が、2019年4月28日(日)に、まつのき亭で開催されました。今年から会の名称変更とともに在学学生まで対象を拡げ、昭和52年卒業をはじめとするOB、OGに加え在学学生と教員の計39名が参加しました。参加者は、学生当時の思い出や、近況を話題に盛り上がりながら、世代の違いも気にせず大いに懇親を深め、機械加工学研究室の発足から変わらない和気あいあいとした雰囲気のひとつときでした。なお、本会の開催にあたり、機械系同窓会より補助金をいただきました。





# 同窓会会計報告（平成30年度）

## 一般会計

## 収支計算書

平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
<b>I. 収入の部</b>				
1.入会金収入 会費収入	3,950,000	3,969,920	△ 19,920	397名 { @10,000×396名 @9,920×1名
2.寄付金収入 寄付金収入	839,000	902,260	△ 63,260	479名 953.23口
3.雑収入 受取利息	100,000	111,475	△ 11,475	普通、郵貯、有価証券
当期収入合計(A)	4,889,000	4,983,655	△ 94,655	
前期繰越収支差額	5,228,240	5,228,240	0	
収入合計(B)	10,117,240	10,211,895	△ 94,655	
<b>II. 支出の部</b>				
1.事業費	3,798,000	3,839,050	△ 41,050	
通信運搬費	1,241,000	1,056,414	184,586	会報郵送料 他
会議費	256,000	260,199	△ 4,199	学科連絡委員会 他
旅費交通費	100,000	35,580	64,420	関東支部同窓会
印刷製本費	1,521,000	1,636,627	△ 115,627	会報 他
消耗品費	10,000	5,194	4,806	製本テープ
助成金支出	600,000	614,993	△ 14,993	関東・関西・岡山支部
同窓会活性化経費	60,000	227,775	△ 167,775	HPメンテナンス・ウェブサイトリニューアル
雑費	10,000	2,268	7,732	振込手数料
2.学科事業費	1,152,000	1,134,000	18,000	
学科配分会費	1,152,000	1,134,000	18,000	378名 @3,000円
3.管理費	465,000	464,800	200	
業務委託費	400,000	400,000	0	(公財)岡山工学振興会
〃	65,000	64,800	200	同窓会員データメンテナンス：小野高速印刷(株)
当期支出合計(C)	5,415,000	5,437,850	△ 22,850	
当期収支差額(A)-(C)	△ 526,000	△ 454,195	△ 71,805	
次期繰越収支差額(B)-(C)	4,702,240	4,774,045	△ 71,805	

## 基金特別会計

## 収支計算書

平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

(単位：円)

科 目	決 算 額	備 考
<b>I. 収入の部</b>		
1.雑収入 受取利息	139,643	有価証券
当期収入合計(A)	139,643	
前期繰越収支差額	3,293,642	
収入合計(B)	3,433,285	
当期支出合計(C)	0	
当期収支差額(A)-(C)	139,643	
次期繰越収支差額(B)-(C)	3,433,285	



工学部同窓会ではホームページを通じてみなさまにいろいろな情報をおとどけします。ホームページを充実させるためにみなさまからの情報を募集しています。是非ご協力下さい。例えばこんな情報を募集しています。

- ・同期会、研究室同窓会、など行事のお知らせ
- ・みなさまの近況
- ・同窓生の方がお持ちのホームページ（リンクさせていただきます）
- ・同窓生による寄稿（エッセイ、旅行記、写真などなんでも構いません）

ホームページへのご寄稿、ご要望などは [ofst@cc.okayama-u.ac.jp](mailto:ofst@cc.okayama-u.ac.jp)宛にお願いします。

## 同窓会事務局より

### 同窓会報への寄稿などのお願い

会員の方々の寄稿、意見等をお寄せくださいますようお願いいたします。

- 職場報告：600～1200字程度
- 会員グループ報告：600～1200字程度
- 最近の研究から：1200字まで（図・表を含む）
- 会員短信：800字以内（近況、随想、会員や恩師への祝辞、思い出等）
- 通信：400字以内

いずれも写真（顔写真あるいは関連写真）を合わせてご提供ください。

なお、いずれの寄稿につきましても、編集幹事一同の判断により、紙面の都合上内容を損なわない範囲で一部を変更、削除させていただくことがありますのでご了承をお願いいたします。

### 支部活動の助成について

次のとおり支部活動を助成します。幹事、あるいは岡山工学振興会内・岡山大学工学部同窓会(086-255-8311)へ御連絡ください。

- (1) 100人程度を超えるような支部が総会、懇親会等の活動を行う場合に助成する。
- (2) 通信連絡に必要な経費として、小野高速印刷(株)を利用した場合等の実費額と180円/人・回のいずれか安価な額を助成する。
- (3) 懇親会等の会合に要する経費として50,000円/会を助成する。

### 寄付のお願い

工学部同窓会は、皆様のお力添えに支えられ今日まで活動を行ってまいりました。今後も活発な同窓会活動を継続するためには財務基盤の強化が急務であるため、昨年度に引き続き会員の皆様に寄付のお願いをすることになりました。寄付は一口1,000円からとさせていただきますが、ご都合に応じ何口でも結構でございます。ご支援、ご協力よろしくようお願い申し上げます。ご寄付は下記宛でお願いいたします。

郵便振替 01270-4-5233 岡山大学工学部同窓会

\*通信欄にはご住所、お名前、電話番号、卒業学科（専攻）、卒業年度、会報への氏名掲載の可否をご記入下さい。

### 「岡山大学工学部創立60周年記念事業」のご案内

岡山大学工学部が1960年（昭和35年）に機械工学科、工業化学科の2学科で発足して以来、来年2020年（令和2年）で創立60周年を迎えます。これを機会に下記の記念行事が工学部と工学部同窓会の協力の下で計画されています。詳細が決まりましたら、ホームページ、メール、その他でご案内致します。皆様からのご支援、ご参加をよろしくお願い申し上げます。

日程：2020年（令和2年）4月29日（水・祝）

場所：岡山大学創立50周年記念館（記念式典、記念講演会）  
岡山ロイヤルホテル（記念祝賀会）

## 編集後記

Faculty of Engineering Okayama University

岡山大学工学部同窓会報第31号をお届けします。と書いたところでなぜ31号なのかと一瞬思ってしまいました。平成31年から令和元年に変わったのということなのですが、号数は通し番号なので、元号が変わっても番号を振り直したりしないので当たり前だったのです。

さて、昨今は活字離れといわれ、文字だけの文章は読まれにくいという傾向があるようです。この同窓会報も以前と比べてカラフルになり、写真を多くして文字を少なくすることで読みやすくする工夫を心がけています。写真も含めてご寄稿いただいた方には厚く御礼申し上げます。表紙には機械システム系学科の竹元先生の授業風景を撮影した写真を掲載しました。ま

た、途中にも電気通信系学科の豊田先生の授業風景の写真もあります。当時を懐かしく思い出される卒業生もおられるでしょう。一度、手に取ってご覧いただければ幸いです。

来年は工学部創立60周年の記念の年となります。工学部同窓会では工学部と協力して60周年記念事業の企画を進めております。4月29日には記念式典や記念祝賀会を開催することを計画しております。案内を後日お送りしますので、多数の卒業生のご来場をお待ちしております。今後とも工学部同窓会に対しまして、皆様方のご理解とより一層のご支援をお願いいたします。

学内代表幹事 佐藤 稔（電気通信系学科）